



ごあいさつ

近年、情報通信技術の発展により国や地域を越えた交流ができるようになり、新たなコミュニケーションが生み出される一方、昔からの近所づきあいや助け合いといったものが徐々に失われつつあり、地域における相互扶助の機能の弱まりや地域での孤立孤独など、様々な課題を抱えております。

鳩山町においても人口減少、少子高齢化などにより地域活動の担い手不足とコミュニティの衰退が懸念されています。地域住民が集い、参加する機会が少なくなることは、地域の支え合い機能の低下が加速する原因の一つであると危惧しております。

鳩山町では、令和元年度から令和5年度までの5年間を計画期間とする「第2次鳩山町地域福祉推進プラン」を策定し、基本理念である「地域で支え合う福祉のまちづくり」の実現のために、町民、福祉事業者、商工業者・企業、社会福祉協議会、行政機関などがそれぞれの役割を果たしながら、協働して取り組んでまいりました。

しかしながら、福祉のニーズの多様化・複雑化により、新たな課題が増加しており、この課題を解決するためには、今以上に地域に関わる住民が意見や知恵を出し合い、共に協力して課題に取り組んでいくことが重要であり、町民の皆さまをはじめとする地域全体が一体となり取り組む「支え合う福祉のまちづくり」の更なる強化が求められています。

このような課題を踏まえ、令和6年度から令和11年度までの6年間を計画期間とする第3次鳩山町地域福祉推進プラン」を策定しました。本計画では「支え合う福祉のまちづくり」の基本理念を踏襲し、人と人をつながり合い、支え合い、自分らしくいきいきと暮らせる、より良い鳩山町を目指していきます。

結びに、本計画の策定にあたりまして、貴重なご意見やご提言をいただきました鳩山町地域福祉推進プラン策定・推進委員会委員の皆さまをはじめ、調査等にご協力をいただきました町民の皆さま並びに関係者の皆さまに心から感謝申し上げます。

令和6年3月

鳩山町長 小峰 孝雄



ごあいさつ

近年、少子高齢化の進展や価値観の多様化など、社会福祉を取り巻く環境の変化が進む中で、虐待やひきこもり、ヤングケアラーの問題など、人々が生活する上での様々な問題が顕在化するとともに、複雑かつ複合化しています。

また、新型コロナウイルスにより、地域活動の中止や縮小が余儀なくされ、住民同士のつながりの希薄化や生活様式の変化は、新たな孤立や生活困窮の一因となっています。

多様で複雑化する福祉ニーズに対応するには、公的なサービスだけでなく、住民同士のつながりや助け合いをはじめとした、社会全体での支援が必要不可欠となっています。

鳩山町社会福祉協議会では「地域で支え合う福祉のまちづくり」を基本理念とし、その実現に向けて住民、福祉事業者、商工業者・企業、行政機関などと連携し、様々な取り組みを進めてまいりました。第3次計画もこの理念を踏襲し、推進を図ります。

本計画では、重層的支援体制整備事業のさらなる推進、成年後見制度の利用促進や、犯罪をした人等の社会復帰支援についても地域共生社会の実現の一端を担うとの観点から「鳩山町重層的支援体制整備事業実施計画」「鳩山町成年後見制度利用促進計画」及び「鳩山町再犯防止推進計画」を内包し、様々な課題に対応できる地域を目指す内容となっています。

この計画を着実に進め、住民の皆さまが住み慣れた地域で、安心して暮らせるよう取り組んでまいります。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、本計画の策定にあたり、ご尽力いただきました策定・推進委員会の皆さまをはじめ、ご協力いただいた全ての皆さまに心より厚くお礼申し上げます。